

新しい生活様式の中での教育活動を 学校、家庭、地域の共通理解のもと進めていきましょう

新型コロナウイルス感染症による休校が長い期間続きました。この間に、いろいろなガイドラインが作られたり、オンラインによる授業が展開されたり、社会生活は大きく変化しました。各学校においても以下の点に留意し、新型コロナウイルスの感染防止を図りながら、社会の状況に応じた教育活動を進めていきましょう。

健康管理について

- ・「群馬県学校再開に向けたガイドライン」を参考にし、検温、マスクの着用、手洗い、うがい、換気等を徹底しましょう。
- ・3密（密閉・密集・密接）を避けること、人と人との距離を適切に保つこと、食事の際、机を向かい合わせにしないこと等を意識して生活しましょう。

参考資料：「群馬県版学校再開に向けたガイドラインに基づく新型コロナウイルス感染症対策点検チェックリスト（西部教育事務所）」



生徒指導について

- ・学校再開時、いつもとは異なった環境が長く続き、児童生徒は心に不安を抱えているかもしれません。児童生徒一人一人の心に寄り添い、SCやSSWと連携を図りながら児童生徒が環境の変化に対応できるようにしましょう。
- ・誰もが感染する可能性があるということや偏見や差別につながるような行為は決して許されるものではないこと等を児童生徒、保護者等に伝えましょう。また、地域や身近な人の中に感染者が出た場合、憶測で噂を流したり、差別的な言動をしたりすることのないよう指導しましょう。

参考資料：「新型コロナウイルス感染症に対応した小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における教育活動の再開後の児童生徒に対する生徒指導上の留意事項について（群馬県教育委員会）」

授業改善について

- ・新しい生活様式の中での学習活動は、児童生徒同士の適切な距離等において注意が必要ですが、以下の工夫も参考にしながら、授業づくりを進めていきましょう。

○児童生徒の接触を減らす工夫

<ICT機器の活用>

- ・プロジェクターや拡大投影機等を活用し、実験器具等を実際に操作する様子を大きな画面に映し、児童生徒がイメージしやすくする。
- ・デモンストレーションの場面等で動画教材を活用する。
- ・児童生徒がタブレット端末等を使用できる場合には学習支援ソフト等を活用し、個人の考えを全体で比較、分類、共有しやすくする。



<考えを共有する場面における工夫>

- ・ホワイトボードや短冊等にかかれた個人の考えの中から代表的なものを教師が黒板上で取り上げたり、ベン図などの思考ツールを使って個人の考えを表現させ全体で共有したりする。

<交流活動の場面の精選>

- ・年間指導計画の中の「身に付けさせたい資質・能力」を学校全体で確認しながら、体験的な活動の場面や会話、意見交流の場面等を精選する。

○思考を促す場面の設定や発問の工夫

<思考を促す場面の設定>

新しい生活様式の中での対話的な学びについて考えてみましょう。対話的な学びとは、自己の考えを広げ深めるために行われる学びのことで、子供同士の対話や交流活動に加えて、**先哲との対話、作者との対話、過去の自分との対話**などもあります。いろいろな考えを出し合い、比べながら深い学びへとつなげる場面を意図的に設定していきましょう。

<多様な考えを引き出したり

思考を深めたりする発問の工夫>

交流活動が制限される状況だからこそ、児童生徒が自己の考えを広げたり深めたりするための教師の発問が重要です。以下のような視点で発問を工夫してみましょう。

- 理由を聞く
…「なぜ、そう考えたの？」
- 説明させる
…「Aさんの考えを他の言い方で説明してみよう。」
- 立場や状況、視点を変えてみる
…「違う状況だったらどうかな？」
- 該当する部分を探させる
…「Bの内容はどこにあたるだろう？」
- 他の人の意見に対する考えを聞く
…「Cさんの意見に対して、どのように考えたかな？」



- 今後の生活がどのようなになるのか予測しにくい社会の中にあっても、児童生徒が身に付けるべき「資質・能力」を明確にし、よりよい手立てをみんなで考えながら、児童生徒の「生きる力」を育んでいきましょう。